



慢性痛あるいは神経障害性疼痛
では当初から複数の薬を投与し
てはならない



—この原則を守らないと治
療成績が悪くなる—

戸田克広

慢性痛あるいは神経障害性疼痛では当初から複数の薬を投与してはならない
—この原則を守らないと治療成績が悪くなる—

〒738-0060

広島県廿日市市陽光台5丁目12番

廿日市記念病院リハビリテーション科

戸田克広

国際疼痛学会の指針

国際疼痛学会は線維筋痛症や三叉神経痛を除く神経障害性疼痛に対する薬物治療の指針を報告している[1]。その中で第一選択、第二選択、第三選択の薬を報告している。国際疼痛学会は薬物治療の総論として以下のことを勧めている。1つの薬により十分な鎮痛を得られないか、副作用に耐えられない場合にはその薬を中止して別の薬を試す[1]。1つの薬のみを使用し、耐えられる副作用ではあるが不十分な鎮痛効果しか得られない場合には、異なる機序の薬物を追加する[1]。つまり、国際疼痛学会は当初は1つの薬を試すべきであり、複数の薬を当初から併用して投与することを勧めていない。この薬物治療総論は線維筋痛症や三叉神経痛を含む神経障害性疼痛全般に適用できると著者は考えている。

慢性痛は神経障害性疼痛とは異なる概念により定義された痛みである。つまり、3か月以上継続する痛みを通常慢性痛と定義している。神経障害性疼痛の多くは慢性痛である。

具体的投薬方法

この指針に基づき著者は以下のように当初は1つの薬のみを使用している。そして①から⑤のいずれかになるようにしている[2] [3]。①鎮痛効果はなく、副作用のため使用不能。②鎮痛効果は得られるが副作用のため増量不能。③十分な鎮痛効果があり、増量が不要。④上限量投与により不十分な鎮痛効果は得られるが、上限量投与のためそれ以上の増量が不可能。⑤上限量を投与しても鎮痛効果がない。

①と⑤の場合には、その薬を漸減中止後、新たな薬を同様に試している。②と

④の場合には、その薬に加えて新たな薬を同様の方法により追加している。③の場合に新たな薬を追加せずそのまま経過を観察している。

望ましくない投薬方法

①から⑤の中には以下の二つが含まれていないことに留意すべきである。⑥上限量を使用せず無効とみなして中止する。⑦不十分な鎮痛効果しか得られないにもかかわらず、しかも副作用のために増量不能でもないにもかかわらず、増量せず経過を観察する。⑥を行うと、増量すれば鎮痛効果を発揮するかもしれない薬を逃してしまう可能性がある。複数の薬を当初から使用し、そのまま⑦を長期間行うことは時間の無駄になる。

同じ薬を使用しても治療成績が異なる

線維筋痛症などの神経障害性疼痛の薬物治療においてはどの薬が有効であるかを知る前にこの原則を知ることの方が重要である。この原則を知っているか否かにより治療成績が大きく異なる。著者は線維筋痛症やその不全型である慢性広範痛症 (chronic widespread pain) や慢性局所痛症 (chronic regional pain) の治療を行っている。著者は自分の治療方法を可能な限りすべて公開している。しかし、同じ薬を使用しても全体では著者の方が治療成績がよい自信がある。その最大の原因は前述の原則を多くの医師が守らないことである。多くの医師は当初から複数の薬を使用し、⑥や⑦を行っている。この原則を守らなければ治療成績が悪くなる。

線維筋痛症に限らず、神経障害性疼痛においては1つの薬のみで治療が可能なことはほとんどない。結局は複数の薬を使用する必要があるが、当初から複数の薬を使用する方法と、1つずつ薬を追加する方法は全く異なる。

当初から複数の薬を併用する方法の問題点

当初から複数の薬を併用する方法の問題点は以下の通りである。A:肝機能障害などが起きた場合、その原因がわからずすべての薬を中止せざるを得ないことがある。激的な副作用の場合には、すべての薬を二度と使用できない事態になることさえある。B;不十分な鎮痛効果のまま⑦を行うことが多くなる。C:ごく希に1つの薬に鎮痛効果があっても別の薬を追加すると鎮痛効果が弱くなってしまうことがある。単なる偶然の可能性はあるが、複数の薬を当初から使用すると、この問題が起きた

時に対応ができない。D: 1つの薬のみで対応可能な機会を奪ってしまう。

例外

トラムセット[®]はトラマドールとアセトアミノフェンの合剤である。単一の薬とみなして使用せざるを得ない。メコバラミン（メチコバル[®]）と葉酸（フォリアミン[®]）を併用して線維筋痛症に使用している[4-5]。この場合には例外的に二つの薬を合剤とみなして使用している。これらは例外であることに留意していただきたい。

まとめ

神経障害性疼痛においては当初から複数の薬を併用せず、1つの薬のみを使用すべきである。1つの薬を十分な鎮痛効果が出たり副作用のために使用不能になったりしない限り、上限量まで増量すべきである。

引用文献

- 1) Dworkin RH, O'Connor AB, Backonja M, Farrar JT, Finnerup NB, Jensen TS, Kalso EA, Loeser JD, Miaskowski C, Nurmikko TJ, Portenoy RK, Rice AS, Stacey BR, Treede RD, Turk DC, Wallace MS: Pharmacologic management of neuropathic pain: evidence-based recommendations. *Pain*. 132: 237-251, 2007.
- 2) 戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.
- 3) 戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet, 2012,
<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>.
- 4) 所澤徹: 圧痛点を11カ所以上持つ患者に対するビタミンB12高容量葉酸補充療法の検討 外来患者165例に対する検討. 日本線維筋痛症学会 第4回学術集会プログラム・抄録集. 68, 2011.
- 5) Toda K, 戸田克広: メコバラミン（メチコバル（R））と葉酸（フォリアミン（R））の併用は線維筋痛症に有効. 日本線維筋痛症学会 第4回学術集会プログラム・抄録集. 90, 2012.

著者紹介

戸田克広（とだかつひろ）

1985年新潟大学医学部医学科卒業。元整形外科医。2001年から2004年までアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）に勤務した際、線維筋痛症に出会う。帰国後、線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や原因不明の痛みの治療を専門にしている。2007年から廿日市記念病院リハビリテーション科（自称慢性痛科）勤務。『線維筋痛症がわかる本』（主婦の友社）を2010年に出版。電子書籍『抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、抗不安薬の罣、日本医学の闇—』<http://p.booklog.jp/book/62140>を2012年に出版。ブログにて線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や痛みの情報を発信している。実名でツイッターをしている。

ツイッター：@KatsuhikoTodaMD

実名でツイッターをしています。キーワードに「線維筋痛症」と入れればすぐに私のつぶやきが出てきます。痛みや抗不安薬に関する問題であれば遠慮なく質問して下さい。私ができる範囲でお答えいたします。

電子書籍：抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、精神安定剤の罣、日本医学の闇—<http://p.booklog.jp/book/62140>

日本医学の悪しき習慣である抗不安薬の使用方法に対する内部告発の書籍です。276の引用文献をつけています。2012年の時点では抗不安薬による常用量依存に関して最も詳しい日本語医学書です。医学書ですが、一般の方が理解できる内容になっています。

・戸田克広：「正しい線維筋痛症の知識」の普及を目指して!—まず知ろう診療のポイント—. CareNet 2011

<http://www.carenet.com/conference/qa/autoimmune/mt110927/index.html>

薬の優先順位など、私が行っている線維筋痛症の最新の治療方法を記載しています。

・戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet 2012

<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>

さらに最新の情報を記載しています。

ブログ：[腰痛、肩こりから慢性広範痛症、線維筋痛症へー中枢性過敏症候群](http://fibro.exblog.jp/) 戸田克広 <http://fibro.exblog.jp/>

線維筋痛症を中心にした中枢性過敏症候群や抗不安薬による常用量依存などに関する最新の英語論文の翻訳や、痛みに関する私の意見を記載しています。

線維筋痛症に関する情報

戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.

医学書ではない一般書ですが、引用文献を400以上つけており、医師が読むに耐える一般書です。

電子書籍

通常の書籍のみならず電子書籍もあります。

電子書籍（アップル版、アンドロイド版、パソコン版）

<http://bukure.shufunotomo.co.jp/digital/?p=10451>

通常の書籍、電子書籍（kindle版）

http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm_kin_title_0

電子書籍（XPDF形式）

<http://books.livedoor.com/item/4801844>

慢性痛あるいは神経障害性疼痛では当初から複数の薬を投与してはならない—この原則を守らないと治療成績が悪くなる—

2012年12月17日 第1版第1刷発行

2013年1月5日 第1版第4刷発行

<http://p.booklog.jp/book/62446>

著者：戸田克広（とだかつひろ）

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブックログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>

慢性痛あるいは神経障害性疼痛では当初から複数の薬を投与してはならない—
この原則を守らないと治療成績が悪くなる—

<http://p.booklog.jp/book/62446>

著者：戸田克広

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/katsuhitodamd/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/62446>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/62446>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ